

平成29年2月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成29年2月22日 (水)		
2 開会及び閉会	開会	15時00分	
	閉会	16時20分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	奥 津 晋	
	委 員	塩 田 澄 子	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	天 野 和 弘
統括審議監	小 西 洋 史	審議監 (学校教育担当)	三 宅 泰 司
審議監 (生涯学習担当)	後 河 正 浩	審議監 (教育人事財務担当) (人事財務課長事務取扱)	石 井 雅 裕
審議監 (保健体育担当) (保健体育課長事務取扱)	長 畑 智	教育企画総務課長	赤 野 政 治
学校施設課長	齋 藤 和 美	学事課長	奥 橋 健 介
学事課移譲担当課長	原 直 樹	指導課長	岡 林 敏 隆
指導課教育支援担当課長	服 部 道 明	生涯学習課長	近 藤 康 彦
生涯学習課課長代理	安 東 信 哉	審議監 (企画総務担当) (こども企画総務課長事務取扱)	吉 實 達 男
地域子育て支援課課長補佐	田 中 光 彦	保育・幼児教育課課長補佐	高 原 秀 樹
こども園推進課長	花 房 明 彦	スポーツ振興課長	池 田 経 二
事務局 (教育企画総務課主査)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課主任)	長 森 晴 子
5 議題及び結果			
報告第 1 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	承認
報告第 2 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	承認
報告第 3 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	承認
報告第 4 号	専決処理の報告 (市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認	承認

報告第 5 号	て) 専決処理の報告(市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について)	承認
第 3 号議案	岡山市教育委員会職員の永年勤続表彰に関する規則の廃止について	原案可決

6 教育長等の報告 [平成29年1月14日(土)～平成29年2月10日(金)]		
1/17	いきいき学校園づくり	指導課
1/18	いきいき学校園づくり	指導課
1/19	いきいき学校園づくり	指導課
1/20	いきいき学校園づくり	指導課 保育・幼児教育課
1/22	岡山E S Dフォーラム2017	指導課
1/27	学校給食週間中の学校訪問	保健体育課
1/31	第5回総合教育会議	総務法制企画課
2/4	家庭教育支援フェア「子そだておうえんハッピータイム」	生涯学習課
2/7	岡山市立石井小学校における特色ある教育(イマージョン教育)公開授業研究会	指導課
2/9～10	こころの劇場	指導課
奥津委員 教育長 指導課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岡山大学での岡山E S Dフォーラム2017について、概要とどういった方が来られていたか、説明願いたい。</li> <li>○ 詳しく。</li> <li>○ 岡山E S Dフォーラム2017は、今年度初めて行われたものである。岡山市のE S Dの取組がユネスコから表彰を受け、それを記念して市長部局のE S D推進課が中心となって行った記念イベントである。一部表彰等もあったのだが、教育委員会の関わりとしては、午後からの部でE S Dをテーマとしたパネルディスカッションを行った。パネリストとして岡山市長や、現役の大学生、教育関係では上道中学校の校長先生にパネラーになってもらい、意見交換を行った。市長は岡山市での取組の強化であるとか、それから新鮮だったのが、大学生が結構緊張しながらも初々しくしっかりと、大学生としてこんな関わりをした、矢掛町でいろいろなことをしたというようなことを発表していた。それから、中学校の校長先生も学校としての取組の在り方、いろいろなことを知ることがこのE S Dをすすめる上で非常に役に立っていた、効果的だったというようなお話をしていただいたところである。来場者数が400人で、あまり子どもたちの参加は見られなかったのだが、先生方や地域の方が何人かお見えになっておられて、いい1日だったと感じている。</li> </ul>	
奥津委員 指導課長	○ 場所は岡山大学を。	
奥津委員 指導課長	○ はい。	
石井委員	○ 創立五十周年記念館か。	
指導課長	○ はい。	
	○ 具体的にどういう取組が評価されたのか、今少し話が出たかもしれないが、説明願いたい。	
	○ 岡山市では一昨年の世界会議に向けて、E S Dを全国でも先進的に取り組んできたという歴史がある。その中で、他の自治体と違うのが公民館を中心とした地域に根差したE S D、それから学校が学校教育の中に積極的に取り入れていき、それがユネスコスクール、E S D活動の拠点校としてユネスコに認定された実績を持つ学校が、今、全部で51校ある。また、E S D推進課が市の方針で世界会議が終わった後も残り、そこが中心となって海外との連携、学校間	

<p>奥津委員 生涯学習課長</p>	<p>連携も少し協力してお願いをしているのだが、そういったあたりで日本の中でも積極的に地域へ貢献するとか、地元愛を高めるとか、いろいろなつながりを深めていくというような活動ができています。そういったあたりが注目されたのではないかと認識している。</p> <p>○ 子そだておうえんハッピータイムについて、説明願いたい。</p> <p>○ 家庭教育は、今後強化しなければならない重要施策であって、現在政策展開を2本柱で進めている。まず、1本目は家庭への働きかけや支援である。2本目が家庭を支える社会全体への働きかけで、この両面をやっているのだが、このイベントはこの両面を包括するような形で開催している。市の関係課や施設、それからNPO団体、企業、こういうところがブースを出店して、それぞれ子どもさんの遊び等も提供しながら、片や相談コーナーを設けて相談にも応じるというような形のイベントである。このイベントの具体的な狙いは、家庭教育の意識を高めるきっかけにさせていただくこと、個別の相談機会を提供すること、支援組織や支援内容の周知やPR、それから関係団体同士の横の連携の促進や情報交換をしていただく場にしたいというようなことであった。</p> <p>終了後に来場者や参加団体のアンケートを実施し、その結果であるが、気づきのよい機会になったとか、現実相談させていただき助かったとか、こういった面では十分相談ニーズはあるということも確認できた。それから、なかなか悩みがあっても相談するには敷居が高くて二の足を踏んでいたけれど、こういう場で気軽に話ができよかったとか、関係団体同士のよい交流になって相互理解が進んだとか、そういったご意見もいただいている。</p> <p>今後の課題まで含めてお話をさせていただくが、来場者は就学前のお子さん連れの家族が多い。実は岡山っ子育成局の方でわくわく子どもまつりという、同じようなイベントをしており、私どもの方は相談メインという形をより鮮明にして今後さび分けもしていく必要があるのではないかと考えている。</p> <p>それから、今回が3回目であり、3回目を終了したので、今後の展開に向けて少し全体の見直しをしていこうかと考えている。あとは内輪の話になるが、職員が手づくりでイベントをやっていて、なかなかその負担が大きくなっており、そういったやり方についても少し今後の見直しをしたいと考えている。</p>
<p>奥津委員 生涯学習課長</p>	<p>○ 来場者730人とかかなり多いと思う。就学前のお子さんをお持ちの家族が多いとのことだが、割合でいうとどれくらいか。</p> <p>○ 感覚的にだが、8割方が就学前のお子さんをお持ちの家族だったと思われる。</p> <p>○ 保育園や幼稚園でPRをしたのか。</p> <p>○ そういったところでもチラシをお配りしたので、そのチラシを見て来場された方が多かったようである。</p>
<p>奥津委員 生涯学習課長</p>	<p>○ あまり小学校向けの感じはないようだが。</p> <p>○ 相談となると、自閉症や悩みを抱えるような方に相談対応するNPOがいたり、もう少し上の学年を対象に考えてはいるのだけれども、冬の寒いときになかなか子どもさんを連れていく場所がないようで、そういったニーズで気軽に来ていただくのも非常に結構なことではあるのだが、ただ我々も開催目的もあるので、その辺りが今後の課題であるかと思っている。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 少し私ものぞいたのだが、本当に華やかな明るい感じでよいなと思った。短時間なので詳しくは見られなかったが、担当課の負担が大きいのだろうなと思いつつ見ながら見てまわった。</p>
<p>石井委員 生涯学習課課長代理</p>	<p>○ 今お話があったように、相談ニーズの中で割合としてこういうものが多いとか、そういった集計までいかないかもしれないが、どういった状況だったか教えていただきたい。</p> <p>○ 一番多いのは、一般的な子育てについての質問の方だと思う。こういうとき</p>

<p>石井委員 生涯学習課課長代理</p>	<p>にはどうしたものかとか、一人でちょっと子どもを育てているのでほかの保護者の方々とお話できるような場所がないかとか、そういった一般的な子育てについてのご相談や、そういう場を求められている方が一番多いかと思う。</p> <p>○ 深刻な相談というの、そこでされるのかどうか分からないけれど、含まれるのか。</p> <p>○ 深刻な相談とか、相談内容はさまざまであろうかと思うが、やはりイベント会場なので、詳しい話はまた後日、うちの団体、相談機関に来てくださーいといったかたちでつながれて、後日そこを訪ねて行かれていたりするような話を聞いている。そういった悩みを持たれている方と団体、相談機関などをおつなぎするような機会にもなっているというところかと思う。</p>
<p>石井委員 保健体育課長</p>	<p>○ 6番の給食の学校訪問だが、私も伺わせていただき、中学1年生の生徒の方々と直接触れ合う機会にもなって非常にいい機会だったと思っている。その中で地元の野菜を使った給食を食べさせていただいて、非常によかったのだが、直接これは関係ないかもしれないが、最近野菜がすごく高くなっているためにそれ以外の食材にかけられる費用が少なくなって、量や質が少なくなっているといった話も聞いたことがある。そのあたりの状況について説明願いたい。</p> <p>○ 給食費については、岡山市の場合は年間のトータルで考えている。基本は所要栄養量を確保すること、それに合わせた基本献立にあわせて買っている。月々は一応決まっているのだが、1年間を通じて給食費を集めて、最終の2月なり3月で全部精算をする。よって、でこぼこが出た分については、余れば返すし、足りなければ余分にお金をもらう場合もある。所要栄養量を確保しながら、その時々で買うものを変えていっているので、岡山市の場合、給食費が足りないからといって野菜をとるのをやめるとか、そういうことにはなっていない。確かに12月現在で聞いてみると結構厳しいところもあるようだが、岡山市の場合、1給食施設に1名栄養士がいるので、その中で計算をしながら所要栄養量の確保に努めている。</p>
<p>石井委員 保健体育課長 石井委員 保健体育課長</p>	<p>○ それでは、必要なカロリーというか、栄養量は決まっていて、仮に費用が増えていっても、それは担保されているということでしょうか。</p> <p>○ 野菜だけでなく全体ということか。</p> <p>○ トータルである。</p> <p>○ そのとおりである。トータルで食材を発注しており、その中で確保していきたいと考えている。もし最悪足らないようなことがあれば、最終月で調整する場合もある。</p>
<p>石井委員 保健体育課長</p>	<p>○ 地元の野菜をたくさん使った場合、それ以外の通常の流通ルートでやってきた野菜を買うのと比べて高い場合と安い場合の両方あるかと思うが、コスト的にはどうなのか。</p> <p>○ 地元産を買うことで高くつく場合もあるし、逆に小さい学校であれば周辺の農家との連携、密着な関係があるので、いいものを安く入れてくれる場合もある。一概に高くなるとは言いがたいが、高くなる場合が確かにある。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 石井小学校のイマージョンの件について、できれば行きたいと思っていたのだが、行けなかった。プログラムはもうもらったので、大体どんなことをしたかは読ませてもらったが、ある程度の期間ずっと続けられていると思うので、イマージョンをやってきたことでの成果がある程度何か表れていれば、教えていただきたい。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ イマージョンが導入された時代は、まだ小学校に英語という文化が全くない時代で、文部科学省も英語の導入というようなことはあまり議論にもなっていなかった時代だった。それに先んじて英語の授業をするということではないのだが、子どもたちに英語を聞かせる機会、英語に触れさせる機会をということ</p>

で石井小学校ほか2校にイマージョン教育という形で導入された。英語を学んで英語力をつけるというのではなく、英語でもって授業を行う、英語でもって子どもたちに話しかけるというような取組だったと思う。

それで、どのような授業の内容、どのような取組ができるのかということで始めたのが体育、音楽、図画工作という、いわゆる実技を伴う3つの教科であった。逆に算数であるとか、もちろん国語を英語でやるということにはならないので、実技のほうから、身ぶり手振りで子どもたちが先生の言うことを理解できるのではないかとといったところからスタートしたのではないかと思われる。ところが、例えば体育を英語で指示すると、肝心なところがわからないとけがにもつながるということがあったりするので、今、ほか2校と申し上げたが、2校はもうイマージョンをやめて、石井小学校だけが残り、図画工作を英語でもって指示伝達を行う授業という形になっている。

ほかの2校がやめていった経緯については、その後文部科学省が小学校にも英語活動をということを行い始めた時代がある。それから、総合的な学習の時間のメニューの中で外国語活動、英語の会話をしていくことで総合的な学習の時間を進めていくというような考え方もできて、そのうち外国語活動、英語を使って会話をすることが小学校の授業の中で根づいてきたというのが中盤ぐらいにあったと思う。そんな中で、石井小学校だけ続いているという状況である。

今回の公開授業も、英語で指示をする1年生から4年生までの図画工作の授業、それから英語活動、3年生、4年生、5年生、6年生となるとこれは実際にその英語を学ぶというような授業である。石井小学校では英語を聞くだけでなく英語を学ぶ授業を、イマージョン教育を進め残しながら取り組んでいただいているので、その公開を行っていただいた。

ここ数年、石井小学校では年間2回、英語で指示をする図画工作と、ほかの学校でも取り組んでおられる外国語活動、英語活動を公開をしていただいている状況である。

特に英語活動については、今後本格的に教科としての英語が小学校へ入る。小学校の担任の先生が英語の授業を行って、その英語の授業、子どもたちの力を評価しないといけなくなる。それに向けての先進的、モデル的な取組という位置づけも、今の石井小学校に担っていただいているという考え方で進めている。具体的には公開授業をしていただいて、小学校の英語活動について造詣の深い大学の先生、講師を招いて講師謝金を指導課で対応させていただいている。今回は例年以上に多くの先生方の参加があったという成果があらわれている。

この石井小学校の取組は、全く英語のなかったとき、英語に触れるというところからスタートしたのだが、今後の岡山市の小学校における英語の授業のモデルとなることを期待していきたいと思っている。

○ 要するに小学校に英語が科目としてできると、今からスタートというよりは、大分前にスタートして積み重ねてきたものを利用して、こういうふうにするよりも興味を持ってもらいやすく、よりよい授業ができるというような実績、材料というか、そういうものを利用して英語の科目化につなげていく筋道が何とかできつつあると考えているということか。

○ そのとおりである。

○ 10番のこころの劇場の内容と概要について説明願いたい。

○ これはここ数年取り組んでおり、道徳性を養うための授業として続けている。具体的には劇団四季、プロの劇団の本物の劇を子どもたちに鑑賞してもらおうということで、対象が小学生なのだが、今年度4,000人を超える子どもたちに市民会館へ集まって劇を見ていただいた。4,000人は一度に入らないので、資料に2日とあるが、半日とあと1日は午前、午後と3交代で公演をさせ

奥津委員

指導課長

石井委員

指導課長

<p>教育長 奥津委員 教育長</p>	<p>ていただいた。なかなか本物の劇に触れる機会はなく、しかもプロであるから、今年私は見られなかったのだが、昨年度は閲見し、やはり物が違うなということで子どもたちも先生方も喜んで帰っていただいたということである。今後も続けていけたらと思っている。学校によって参加する学年等が違い、例えば6年生全体を連れてくる学校もあれば、4年生以上だったり、学校規模によっても違う。また、うちは別にやっているから参加しないという学校もあるので、そこは学校のご判断にお任せしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年は王子とこじきのミュージカルで、涙が出た。とてもよかった。</li> <li>○ 私の子どももお弁当を持って参加したが、あまり感想は聞かなかった。</li> <li>○ やはり本物は心を打つ。</li> </ul>
-----------------------------	---

7 議事の概要

<p>教育長 教育長 全委員 教育長 全委員 教育長 全委員 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2月定例岡山市教育委員会を開催する。</li> <li>○ 本日の傍聴希望者は1名。入室してもらってよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 日程第2、1月定例会の議事録に問題はないか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 日程第3、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)</li> </ul>
<p>教育長 人事財務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日程第4、報告第1号を人事財務課から報告願う。</li> <li>○ 資料の1ページ、報告第1号専決処理の報告についてご説明する。 このたび平成29年度岡山市一般会計予算案のうち、教育委員会分の教育費予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、2月9日に専決処理したものである。 内容については、資料の2ページ、平成29年度岡山市一般会計予算案の概要についてをご覧ください。 こちらは、目別歳出予算額となっている。市民生活局及び岡山っ子育成局分を除いた教育委員会関係の平成29年度の歳出予算額は総額453億1,634万3,000円で、前年度に比べて金額で248億2,000万円余、率にして121.1%の増となっている。 このうち昨年度と比べて増減が大きな項目の主な理由としては、まず平成29年4月に県費負担教職員制度に係る包括的な権限移譲が行われる中で、教職員の給与等の負担も移譲される。これによって、第5項の小学校費で179億6,000万円余、第10項の中学校費で104億1,000万円余の人員費を新たに計上したことによるものである。また一方で、国の経済対策により事業費の前倒しを行ったことなどにより、学校耐震改修工事は29年度に計上されておらず、小学校費で7億6,000万円余、中学校費で25億円余の減となっている。 第25項の社会教育費について、公民館の耐震改修工事の減だが、操山地区公民館の用地購入が完了したことなどによって、第10目公民館費で8億1,000万円余の減となっている。増減の大きな主な項目については以上である。 次に、資料の3ページをご覧ください。 教育委員会関係の29年度当初予算における主要施策・事業について、岡山市総合計画前期中期計画に掲げる政策レベルで分類し記載している。 このたびの岡山市教育大綱策定を踏まえ、平成29年度は学力の向上、問題</li> </ul>

行動等の防止及び解決に関連する事業に特に重点を置いた予算編成としている。

まず1番目、知・徳・体の調和のとれた自立する子どもの育成の項では、①学力向上推進プロジェクトとして岡山市独自の学力調査、岡山市学力アセスなどを活用し授業改善、人材育成に向けた取組を行い、学力向上を図ってまいる。

また、新規事業、学力向上緊急対策として、自主学習ソフトを全中学校区に導入し、補充発展学習に活用してまいる。

②おかやまっ子チャレンジアッププロジェクトとして、これまで県が行ってきた頑張る学校応援事業に替わる市独自の表彰制度を設けて、児童・生徒が企画実践する学力向上や地域向上のすぐれた取組と成果を評価し、子どもたちの意欲向上を図ってまいる。

③英語教育推進事業として、外国語指導助手の人数を36人から50人に拡大し、英語教育環境のさらなる充実を目指すとともに、新たに民間検定試験を活用した英語力向上事業により、英検3級相当の力を有する生徒の割合を向上させてまいる。

④学校支援ボランティア事業として、学生ボランティアの参加を促進するため、交通費補助を拡充してまいる。

次に、4ページをご覧ください。

⑤はぐくむ心・あったかハート事業、⑥ストップ・ザ学校問題、⑦共に生きる子どもを育てる障害児支援事業、⑧適応指導教室耐震改修整備事業については、28年度に引き続き事業を推進してまいる。

⑨県費教職員の給与負担等の移譲としては、平成29年度から教職員給与等の負担とあわせて教職員定数、教職員配置等の権限が県から移譲されることにより、包括的な人事管理の制度運営を図ってまいる。

次に、5ページをご覧ください。

2番目の家庭・学校・地域が協働で進める教育力の向上の項になるが、まず⑩学校業務アシスト事業として、小・中学校に教職員を補助する事務処理員を配置する。29年度は大規模校の配置時間を拡充することで、さらなる教育環境の向上を図る。

⑪部活動サポート事業として、中学校に部活動の外部指導員を派遣し、顧問教諭の負担を軽減する。

⑫若手教職員育成事業として、学校現場で若手育成方法をまとめた資料の作成、校外研修の充実等により、若手教職員の育成を図る。また、教員育成指標策定に向けた教員育成協議会を設置してまいる。

⑬高島小学校校舎増築事業として、児童数の増加に対応すべく高島小学校の校舎増築工事に取りかかる。

⑭学校空調設備整備事業として、学校へのエアコン導入に向けて整備方針等を検討してまいる。

⑮小規模校におけるICTを活用した学校づくり事業として、インターネットテレビ電話やタブレット端末などのICT機器を活用し、離れた学校との双方向授業を行うことにより、学びの質の維持向上を図ってまいる。

次に3番目、生涯にわたる豊かな学びの充実の項になるが、⑯操山地区公民館整備事業として、平成30年4月開館に向けて操山地区公民館と教育相談室、適応指導教室の合築整備を進めてまいる。

⑰公民館耐震改修整備事業として、地区公民館2館の耐震改修工事を進めてまいる。

⑱図書館相互利用として、岡山連携中枢都市圏のうち5市4町で互いに図書の本貸し出し等ができる取組を始める。

⑱図書インターネット予約事業として、28年度に引き続きインターネット予約図書の受け取り、返却を3公民館で実施する。

最後に4番目、歴史・文化による新たな魅力の創出と発信の項になるが、⑳史跡東大寺瓦窯跡整備事業として、万富東大寺瓦窯跡の恒久的保存を図るための整備に着手する。

なお、学校耐震改修整備事業については、国の経済対策において29年度に計上予定があった37億6,000万円余を28年度2月補正予算において前倒しする予定となっている。

以上で、平成29年度岡山市一般会計予算案のうち、教育委員会分の教育予算案について説明を終わる。よろしく願います。

教育長  
塩田委員

- ご質問、ご意見があったら願います。
- 大綱の目標に向かって、新しい事業を充実してきたなという感じがする。その中で、①の新規の学力向上緊急対策で、自主学習ソフトをもってどういうふうな緊急対応をするのか、具体的に説明願いたい。

指導課長

- この自主学習ソフトは、学校にIDパスを業者から割り振っていただく。そのIDパスを入れると、ウェブページ上にプリント教材を作成する画面が出てくる。そこで先生が選んでもいいし、将来的には子どもたちが自分で選べるようになれば一番いいと思うのだが、学年、それから教科、教科ごとの教科書出版社、岡山市が採択している出版社を選んで、自分の苦手な分野を選択すれば、その分野がA4の1枚分のプリント問題集となって出てくるというものである。そのプリントは、大体各教科1時間で学習する内容が1枚のプリントとして用意されるというようなものである。

授業は普通に続いていって、教科書の内容も順番に進めていくのだが、ちょっと分からなかった部分や苦手な分野が、授業以外のところで、こういったプリント学習でもって補うことができるのではないかと考えている。つまり、子どもたちが100人いれば100通りの自分の分からないところ、分からない教科のプリントを用意できるというものになる。これを将来的には、学力アセスと関連づけて、学力アセスで苦手なところを子ども一人一人が把握をする。そこをその学年のうちに、こういった学習ソフトやこれを利用した補充学習などでもって、理解して習得して次の学年に行くということができればいいと考えているものである。

塩田委員

- これは使うパソコンに限りがあったりするのかな。そういったフォローはどうなるのかな。

指導課長

- これは、各学校で稼働するインターネットにつながるパソコンであれば、何台でも可能であるものを想定している。実際にモデル的に使っている学校もあり、自分たちで入れて使っているのだが、先生方の校務のパソコン、パソコン教室のパソコン、全てIDパスで入れば使えるものである。

教育長

- いわゆる一斉指導の限界というのが当然あるわけで、それを補うために例えば小学校では習熟度別サポーターが取り出し授業をしている。中学校も本当は習熟度別の指導をしたいのだが、なかなか免許状を持っている方がおられないという、数学や国語の免許状を持っていらっしゃる方が仮にいたら、それは講師のほうに回したいということもあたりして、なかなかおられない。これは中学校の習熟度別サポーターに匹敵するようなものと捉えていったらどうかと、つまり本当に自分自身が分からなかったところをしっかりと分かるようにして、次の段階へ進むというようなことができればいいというように思っている。

塩田委員

- イメージ的には、生徒が自分が分からなかったところをパソコン教室に行って操作してプリントアウトし、それを家に持って帰って学習をさせる。



<p>指導課長 塩田委員 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校でもできる。</li> <li>○ それを先生たちがやりなさいよというような形で促していくのか。</li> <li>○ 実はいろいろな使い方ができるものである。今おっしゃったような、パソコン教室を開放して、子どもたちが昼休みや放課後に来て苦手なところを選択して自分でやって、答えも出てくる。解説もあるから、それで補っていくという方法もあるし、教員があなたはこれが苦手だろうということで、プリントアウトしたものをやってきなさいというように、宿題とは別に課すというやり方もある。それから、1時間、1時間に合わせた教科書準拠のプリントなので、授業の中でのまとめ、どのくらい理解できていたかというところを確かめるような、授業の中での教材としての活用の仕方もある。今、先生方が自分でそういったものを作っているのだが、ある意味大きな負担軽減になるのではないかとすることも期待できる。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これは補充学習ということで、する時間帯も放課後であったり時間帯もバラエティーに富んでいるが、例えば習熟度別に、習熟度で少し努力が必要かなというクラスでは一斉に使うとか、そういった使い方全部学校にお任せなのか。学校支援ボランティアの手伝いがあるとか、そういう事務事業になるのか。</li> </ul>
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この使い方は、工夫をすれば幾らでも可能性があるものである。実は、私も使ったことがあるのだが、授業の中でももちろん使う。基礎、標準、発展とレベル3段階のものを用意できるので、習熟度別に、なかなか習熟できない子どもたちには基礎編を与えていく。それから発展編の方は習熟度の早いクラスのほうへ投げかけていく。それは、別途子どもたちが自分で自分の課題レベルに合わせたものを選択できるということも期待できる。する時間帯も、放課後もあり昼休みもあり、それから家庭学習の教材にするのもあり、その都度一人一人にプリントアウトするのは結構手間なところもあるので、必要なものを先生方がプリントアウトして、業務アシストさんに印刷をしていただき、学校のどこか廊下などに並べておくと、子どもたちが必要に応じて自分のレベルに合ったものを持って帰ってこなしていくということも可能になる。業者と連携しながら、いろいろな例示をこちらからしていこうと思う。各学校の課題に合ったやり方をしていただき、その使用状況についても情報交換しながら高めていくことができると考えている。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ かなり自由度が高い事務事業ということか。先ほど課長が言われたような、ある程度例示をした後は自由だよということであれば、新しい形での学習方法が見えるのかなと思う。数年前の夏に、岡山市の小学校でパソコンの早打ちかなにかで全国優勝した学校があったが、あれも休憩時間や放課後などで、子ども同士のすごい切磋琢磨で伸びていったところもあるようだった。そういう形で競争とは言わなくても、自分が分かるということが実感できれば、いい事務事業かと思う。</li> </ul> <p>次のところの新規おかやまっ子チャレンジアッププロジェクトについて、イメージが少し分からないので、説明願いたい。</p>
<p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これは県の頑張る学校応援事業をイメージして制度設計したものである。県の事業では、各学校で行っているすぐれた取組を広く周知して、全体の底上げを図ることが事業の趣旨の中にあっただ。そこに特化したものを、この事業で行っていこうと思っている。どうやってピックアップをするのか、選考するのかといったことが次の問題になってくるが、それは学校の様子をしっかりこちらのほうで見て把握する、それから校長からの報告もいただく、子どもの様子も見ていく、そういったところで選考していきたいと思っている。</li> </ul> <p>ただし、あれもこれもということになると、学校も困るのではないかとと思うので、学力向上に関する取組で何ができるかと、それから地域協働、地域と連</p>

<p>藤原委員</p> <p>教育長 全委員 教育長 全委員 教育長 教育長 こども企画総務課長</p>	<p>携した取組はどんなことをされているかといったところ、その2点に絞って評価をしていきたいと考えている。その中で、特にこちらのほうで目玉にしたいのが、夏休み等を使って中学校区の生徒会を集め、自分たちの取組を発表してもらおうといったイベントを企画したいと思っている。それで、子どもたちがどんなことに取り組んでいるのかといったことがじかに見えてくるかと思うので、そういったあたりを評価指標にしながら施行していく予定である。</p> <p>子どもたちが主体的にということ資料に記載しているが、今こんな仕掛けをしている。各学校には無回答率の目標値を掲げてほしいということをお願いしている。それから、全国調査にある学習状況でそれぞれの学校で課題のあるところを3点ピックアップし、改善目標をつくってほしいということをお願いしている。次に、その内容を子どもたちと共有することをお願いしようと思っている。そうすると、子どもたちがその目標に向かってどうすればいいのかということから、主体的な取組がスタートするのではないかと期待している。</p> <p>また、地域連携の取組であるとか、スマホやゲームの使用のルールについては、子どもたちが主体的に考えたルールづくりなどを行っているので、そのあたりをどんどん拾っていくということもできるかなと思っている。</p> <p>○ 聞くと分かるのだが、この資料を読んだだけでは、今年度までの県の事業と同じような顕彰をする事業ということが読み取れない。もちろん校長会などで説明されるのだろうが、目玉にして新規にするのであれば、少し補足が要るかと思う。今課長が言われたようなことが含まれていたほうがいいのかと思う。</p> <p>これを読んだだけでは、例えば学力向上の意欲づけだけに使うのか、先程の説明のようにスマホや自分たちの生活に関して改善を図っているようなところも対象になるのかが分からない。それと中学校区ごとというのが、地域連携という言葉と似ているが、どういうふうにするのか。まだあまり限定する必要はないと思うのだけれども、学校がこういうのがある、県とはまた違う、市が顕彰して認めてくれるんだといったことにつなげたいと思うのであれば、書きぶりとしてももう少し説明が要るかと思う。言葉で聞いたらよく分かったけれども、と思った。</p> <p>○ ほかに何かあるか。 ○ &lt;なし&gt; ○ 報告第1号を承認してよいか。 ○ &lt;承認&gt; ○ 報告第1号を承認する。 ○ 報告第2号、こども企画総務課から報告願う。 ○ 平成29年度一般会計当初予算案のうち、教育費の岡山っ子育成局分について説明をさせていただく。資料7ページをお開きいただきたい。</p> <p>岡山っ子育成局関係分教育費の予算の総額については、7億9,789万5,000円で、前年度に比較して金額で7,567万3,000円、率にして10.5%の増となっている。</p> <p>主な増加理由としては、第20項第1目幼稚園管理費において、市立幼稚園の耐震改修に係る経費が7,750万円増、それから第25項第5目社会教育振興費においてサンノゼ市との姉妹都市締結60周年記念事業に係るジュニアオーケストラの派遣事業に1,500万円を要することである。</p> <p>次に、資料の8ページをお開きいただきたい。</p> <p>教育費の平成29年度当初予算における事務事業について、9項目を上げている。</p> <p>まず、第20項幼稚園費である。</p>
--	--

<p>教育長 藤原委員</p> <p>こども企画総務課長</p> <p>藤原委員 こども企画総務課長 藤原委員</p> <p>こども企画総務課長 藤原委員 こども企画総務課長 藤原委員</p> <p>教育長 全委員 教育長 教育長 スポーツ振興課長</p>	<p>①幼稚園運営経費は、市立幼稚園の光熱水費等の運営に係る経費や特別支援員に関する経費、幼稚園教諭の研修に関する経費である。</p> <p>②幼稚園施設管理費は、市立幼稚園施設の維持管理に必要な修繕費や排水設備・空調設備設置他改修工事及び法定点検委託料等である。</p> <p>③保育・幼児教育課事務費は、幼稚園の維持管理や幼稚園教諭の研修などの幼稚園事業に携わる職員6名の人件費である。</p> <p>④耐震改修整備事業費は、耐震性の低い幼稚園施設の工事費等である。</p> <p>⑤就園管理課事務費は、幼稚園事業に携わる職員1名の人件費である。</p> <p>⑥幼稚園事務費は、幼稚園授業料の納付書の作成等の事務費、それに従事する臨時職員1名の人件費である。</p> <p>続いて、第25項社会教育費である。</p> <p>⑦次世代育成事務費は、青少年の健全な育成に必要な体験学習の機会を提供する次世代育成事業に携わる職員3名の人件費である。</p> <p>⑧次世代育成体験活動促進事業費は、社会教育関係団体育成、青少年リーダーの養成、体験学習活動の推進などの社会教育活動促進事業費である。</p> <p>最後⑨であるが、少年自然の家の運営費は、少年自然の家・日応寺自然の森の指定管理委託料等の管理運営事業費である。説明は以上である。</p> <p>○ 何かご意見はないか。</p> <p>○ 社会教育振興費か、サンノゼとの交流というのは、交流で向こうから来られる旅費なのか。</p> <p>○ 岡山市のジュニアオーケストラが向こうに行く経費である。その中には旅費もあるし、それから向こうの練習場の会場を借り上げる、そういうところが入っている。それが1,500万円ということで、行く人からは一応3分の2の旅費の負担はいただく予定にしている。ここの会場借り上げ料等については、全て岡山市が負担をするということである。合計で1,500万円ということである。</p> <p>○ 前回サンノゼに行ったときと比べ、予算規模的にはどうか。</p> <p>○ ほぼ同等である。</p> <p>○ その当時と比べると、物価やいろいろなアメリカの事情も変わるかもしれないが、もちろんまだ全貌は分からないとしても、活動は組めるということか。</p> <p>○ そのとおりである。</p> <p>○ その部分で、ここの金額が昨年より少し増えているということか。</p> <p>○ そういった関係で数字が増えている。</p> <p>○ 分かった。</p> <p>○ 報告第2号を承認してよいか。</p> <p>○ &lt;承認&gt;</p> <p>○ 報告第2号を承認する。</p> <p>○ 続いて、報告第3号、スポーツ振興課から報告願う。</p> <p>○ 平成29年度岡山市一般会計当初予算案のうち、スポーツ振興課分の教育費予算案への同意について、岡山市教育委員会事務処理権限規則第6条の規定によって平成29年2月8日に専決処理したものを報告させていただき、ご承認を求めるものである。資料は9ページ、10ページになる。</p> <p>第10款教育費、第30項保健体育費、第5目体育振興費のうち、学校体育施設開放事業費の平成29年度予算額として、1,244万1,000円を要求するものである。</p> <p>なお、28年度1,547万円ということで、約300万円余減となっているが、その要因としては28年度に中山小学校の防球ネットの工事請負費320万円を計上していて、29年度にはそのような修繕予定がないことから減額</p>
--	--

	<p>となっている。予算の内容としては学校開放、施設開放に供する施設の電球等の消耗品費、それから施設修繕費、原材料費、備品購入費等を計上しているものである。</p>
<p>教育長 藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ご質問、ご意見はないか。</li> <li>○ 来年度は、防球ネットはないだろうということのようだが、もしあったときには、この学校開放のところで補正が組まれるのか。それとも学校予算というのか、目的は違うので使われないとは思うのだが、そういう可能性や、次年度に修理を遅らせることになるのか。きちきちの予算だったら心配なのかなと思うが。</li> </ul>
<p>スポーツ振興課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校開放事業での修繕費は、学校開放事業で体育施設を利用していることによる修繕費ということで、学校教育で修繕費が必要となった場合とは分けて考えていただきたいと思う。ご質問の件については、枠予算を若干取っているが、それで対応できない緊急修繕費等が生じたら、補正等で対応していくしか財源がないという状況である。</li> </ul>
<p>藤原委員 教育長 全委員 教育長 教育長 保健体育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ それは可能ということか、わかった。</li> <li>○ 報告第3号を承認してよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 報告第3号を承認する。</li> <li>○ 報告第4号、保健体育課から報告願う。</li> <li>○ 専決処分の報告について、平成29年度岡山市学童校外事故共済事業費特別会計予算案への同意について、教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、平成29年2月7日に専決したもので、岡山市教育委員会事務処理権限規則の規定により、報告し承認を求めるものである。</li> </ul>
	<p>内容については、12ページをご覧いただきたい。 歳入歳出とも1,271万8,000円を計上している。共済会費収入については、年額300円の会費の4万1,970人分を予定している。学童校外事故共済事業費については、見舞金の支払いと事務費、基金等を計上している。</p>
<p>教育長 保健体育課長 塩田委員 保健体育課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 非常に珍しい制度で、そんなにない。3市ぐらいか。</li> <li>○ その程度である。</li> <li>○ ぜひ続けていただきたいと思うが、加入率の毎年の変動はどんな感じか。</li> <li>○ 加入率は、少しずつ下がってきている。理由として、古いのだが平成23年度に調査した際に、入っていない人の6割がもう他の保険に入っているということで、入っている保険の中でこういう部分もカバーができるので、あわせて入る必要はないというような回答が多かった。</li> </ul>
<p>塩田委員 教育長 全委員 教育長 教育長 人事財務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何かしらあったときには、必要な分、大きくなって返ってくるわけだが。皆さんがぜひ利用して続けていっていただきたいと思う。</li> <li>○ 報告第4号を承認してよいか。</li> <li>○ &lt;承認&gt;</li> <li>○ 報告第4号を承認する。</li> <li>○ 報告第5号、人事財務課から報告願う。</li> <li>○ 資料の13ページ、専決処理の報告について説明させていただく。</li> </ul>
	<p>このたび、岡山市職員定数条例の一部を改正するにあたって、原案への同意について教育委員会に付議する時間的余裕がなかったため、2月3日に専決処理したものである。</p> <p>14ページをご覧いただきたい。 提案理由としては、下段に記載してあるように、今回の条例改正は県費負担教職員の給与負担等が岡山県から移譲されることに伴う教育委員会の職員定数の変更にあわせて行われるものだが、同時に今後の行政需要への対応に必要</p>

な職員定数の変更を行うため、平成25年4月1日以降の職員数の増減等を部局の定数に反映させようとするものである。

それと、これは市長から提出される条例改正の議案だが、ちょうど中ほどに936人を4,367人に改めるところが教育委員会に該当する箇所となる。

15ページの新旧対照表をご覧いただきたい。

こちらの表では条例の第2条第1項第7号、表の下の辺りになるが、こちらに教育委員会の職員定数が掲げられていて、現在の定数は936人、それが3,431人増えて、改正後の定数が4,367人となる。

3,431人の定数増については、県費負担教職員の給与負担が岡山県から市に移譲されることに伴い3,561人分増加する。しかしながら、平成25年4月以降、職員数は62人減員となっており、また、現行の市全体の総職員定数が5,623人なのだが、これを変えずに部局間での調整をしているので、この調整による教育委員会の定数減が68人分となり、よって市費職員では合計130人分の減となる。この減員分を増加分3,561人と差し引きし、3,431人分の増ということになる。

なお、教育委員会の現在の県費の教職員を含めた職員の実数、これは実際にいる職員の数なのだが、現在3,840人となる。よって、このままでいけば定数の4,367人との差、定数上では527人分の余裕を見込んでいることになる。

教育長  
石井委員

人事財務課長

- ご質問、ご意見はあるか。
- よく分からなかったのだが、減員分の68人分というのは、結局500人分の余裕があるから、その減員は影響がないという理解でよいか。
- トータルとすれば、今までの936人が4,367人となる。今現在の定数が936人で、職員の実数が県費を入れずに749人ということで、今、187人の余裕になっている。それが今度は県費の職員が入って527人と、要は定数上と実数との差は前に比べたら相当大きな数字になる。市長事務部局や消防局で職員の増加が見込まれており、そちらの定数を増やすので、その関係もあって実数と定数の差が大きなところ、教育委員会や水道局で案分して調整したと聞いている。

藤原委員

人事財務課長  
藤原委員

- よく分からない。県費も市費も一緒の立場になるわけだから、単純に実数と定数が違うというのはいたし方ない。しかし、岡山市独自で設定できるということではないか。
- そうである。
- 根拠はあるとしても、実際に去年の事務局職員と、来年度の方法が変わったとして、事務局の行政職の人数は幾らなのか。

人事財務課長  
藤原委員

人事財務課長

- 実数か。
- 実数で。
- 今年度4月1日で749人だが、来年4月が何人になるかは今はっきりとは分からない。

藤原委員

人事財務課長  
藤原委員

人事財務課長  
藤原委員

人事財務課長

- 要は権限移譲に関して事務局の職員が増えたと思うが、それは来年度どうなるのか。
- 増やしてくださいということをお願いしている。
- 今の、今年度の準備段階よりも増やしてほしいということか。
- 準備段階よりもである。
- それは事務が増えてくるから。
- はい。ただ、岡山市全体の定数は総務局が管理しているので、一応こちらからは要望している。

<p>藤原委員</p> <p>人事財務課長</p>	<p>○ 今までは県に対していろいろ要望したりしたことを、今度は内部でしっかりと要望していくことになる。これを見たら、上がっている部局や下がっている部局、いろいろあると思うが、教育委員会は普通に考えたら仕事量は来年増えると思う。定数がだんだん減員になっているのを埋められてきて、採用がなかった時代からいろいろな推移はあるのだろうが、今までとはずっと違うことをしないといけないので、ここから数年はそれはしっかりとしたいということを理解してもらいたいと思う。人数はともかくとして。</p> <p>○ 市長部局が定数を増やした関係というのが、福祉事務所のケースワーカーを増やすのも理由の一つにあるのだが、もう一つは実際に市長部局の職員数が増えていることがある。なぜ増えているのかというと、今、幼稚園から認定こども園に替わってきている関係で、幼稚園は当然教育委員会の定数なのだが、認定こども園に替わると市長部局の定数に上がってくる。だから、認定こども園が増えていくと、教育委員会は幼稚園教諭関係の数が減って、市長部局のほうは増えることになる。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ その辺りのことも分かるが、ここの本元の仕事が随分変わってきていて大変になっている。どこの局も事務は大変だというし、時代のいろいろな要請があると思うが、権限移譲されて特に来年は非常に行政職や指導主事も含めて事務方が大変だろうと思う。だから学力向上でソフト面のことも言いながら、制度の中で変わってくるというやはり人的なものが大きいので、定数と実数の差があるとしても努力はしていかないとはいけなかなと思う。</p>
<p>教育長 全委員 教育長 教育長 学事課移譲担当課長</p>	<p>○ 報告第5号を承認してよいか。</p> <p>○ &lt;承認&gt;</p> <p>○ 報告第5号を承認する。</p> <p>○ 日程の第5、第3号議案、学事課から説明願う。</p> <p>○ 17ページをご覧いただきたい。</p>
<p>教育長 塩田委員</p>	<p>第3号議案岡山市教育委員会職員の永年勤続表彰に関する規則を廃止する規則の制定についてである。</p> <p>先般、教育委員会協議会でもご協議いただいた。今回の県費負担教職員の給与負担等の税源移譲に伴って一連の条例等々を整備しているわけだが、この中で今回この表彰に関する規則の廃止ということである。平成21年の政令市移行の段階で、その当時岡山市教育委員会で該当職員については表彰するというを岡山県と合意していて、その際に19ページ以降についている今回廃止しようとしている規則を制定した。このたび税源移譲が29年度から適用になることに伴って、もともと岡山市の全庁で運用している岡山市職員表彰規則の中で教職員についても表彰していこうということで総務局と協議を行い、それに伴って新年度に向けて当該規則を廃止しようとするものである。審議等をよろしく願います。</p>
<p>学事課移譲担当課長</p>	<p>○ ご質問、ご意見はないか。</p> <p>○ 協議会を欠席していたので教えていただきたい。基本的にはこれまでどおりと変わらないのか。例えば、本当は10年でもらえるはずだったのになくなったとか、そういうことはないのか。</p> <p>○ 基本的には25年を勤めていただいた方をピックアップして表彰を行うので、その年数のトータル期限は変わらないが、表彰期日が県の場合は11月1日で、市は市制施行記念の6月1日を基準日にするので、その辺りが移行時に若干調整が要るかなということになる。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 6月1日でも11月1日でも決めたらいいと思うが、現場の人ということで、随時これを行うということがこの規則の5条にあるので、例えば冬期休業中という運用でしてあげたらいいのではないか。せつかくの節目なのに普通日</p>

<p>天野教育次長 藤原委員 天野教育次長 藤原委員</p>	<p>だったらまず学校からは来られないと思うので、随時を膨らませてはどうか。具体的に現在はどうなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在は各学校で行っている。</li> <li>○ 各学校か。</li> <li>○ 以前のように、ピュアリティまきびでやるといったことはない。</li> <li>○ ピュアリティまきびでしないとしても、本庁の7階大ホールに来ることもないのか。</li> </ul>
<p>天野教育次長 学事課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市の職員は7階大ホールでしている。</li> <li>○ 今の整理では各学校で校長先生から手渡していただくことにしている。市の職員は7階大ホールでしているのだが、教職員の人数を考えたときに、ここへ来て一括というのが不可能であろうと判断しており、今年度までしていたスタイル、我々のほうから学校へ届けて校長先生からお渡ししていただくという形になろうかと思う。先ほどのご質問にもあったのだが、本市の制度になることによって若干今後の扱いが変わってくる。今現に岡山市、岡山市へ勤務している方が人事交流等で岡山市に来るとか、また岡山市立の学校へずっと勤務している方については25年という勤務の考え方は従前と変わらない。しかし、今後この4月1日から採用される者については、採用の日を永年勤続の始発、初年度と考えるので、例えば県であれば10年間他県で教諭をしていた者が採用試験によって今年度採用されたら11年目というカウントになるが、岡山市の場合は1年目というように、岡山市での勤務という形で考えるということになる。そういうところで若干取り扱いが変わってくる。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 積算はいろいろあるのだろう。表彰が一番簡便なのは今のよう現場で校長さんがあげる方法だろうが、同じ市費の職員になって意識を高めようと思ったなら、冬休み中に市役所に来てもらい、教育長が勤続でよく頑張ったねと一言言ったりとか、副賞として特休を半日あげるとか、規則は変えないにしても要項を変えるのはどうか。冬休みであれば別に授業に差し支えるわけではないし、何か少し意識して節目をお祝いしてあげたらいいのではないかと思った。</li> </ul>
<p>学事課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若干先ほどの説明が不足していた。政令市以前は岡山県教育委員会となっていたのだが、現在は岡山市教育委員会が表彰ということになっている。先ほどの説明にあったように、この度岡山市で統一となり、岡山市の職員という整理で、岡山市長の市長名での表彰ということになる。だから、イメージが変わってくるころがあるかと思う。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市長さんに来てもらって、教育を頑張ったねと言ってもらえばいいのではないか。</li> </ul>
<p>学事課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 決定事項ではないが、そういう話も当然出ており、市長から渡していただくという話も出てはいる。ただ、今の中では学校でお渡しいただくのが現実的かなというところで、決定ではないがまた協議をさせてもらう。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集まりにくい日程だと現場は絶対来られないと思う。だから、随時というところで読めるのであれば、市の行政職の人がする日と変えても市長名でということが可能なのであれば、考えてあげたらどうか。せっかくの節目を迎えるので、そういうのがいいかなと思う。</li> </ul>
<p>天野教育次長 藤原委員 学事課長 藤原委員 学事課長 教育長 全委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 何人ぐらいか。100人ぐらいか。</li> <li>○ 140か。</li> <li>○ 多いときで百数十だと思う。</li> <li>○ 7階大ホールは十分入れる。</li> <li>○ 入れるかと思う。</li> <li>○ そのほかにあるか。</li> <li>○ &lt;なし&gt;</li> </ul>

教育長 全委員 教育長	<input type="radio"/> 第3号議案を原案どおり可決してよろしいか。 <input type="radio"/> <承認> <input type="radio"/> 第3号議案を原案どおり可決する。
-------------------	---

傍聴の状況		
報 一	道 般	1名 0名